

改めて、 「カリキュラム・マネジメント」 はなぜ必要なのか?



國學院大學教授

田村 学

カリマネの目的は「資質・能力の育成」

「カリキュラム・マネジメント」（以下、カリマネ）という言葉には、カリキュラム教育課程の編成を通して「何を行うか」を決めること、それを学校組織として「どのように運用するか」という二つの意味が込められています。中教審では、その要点を①内容の組織的配列、②PDCAサイクル、③外部資源の活用という三つの側面から示していますが、「具体的に何をすればよいのか」という点にはあまり言及されていません。そのため、一種のマジックワードのような印象を現場の先生方に与えてしまっているのかもしれない。

はっきり言えるのは、カリマネが必要な最大の理由は「児童・生徒の資質・能力の育成のため」であるということです。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三本柱の育成には、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現が必要不可欠です。

そのためには日々の授業に加え、カリキュラムの「編成」と「運用」の改善が求められる——こう考えると、カリマネの目的が何なのか明確になると思います。

とくに、すべての先生方にかかわる点で重要なのが「編成」の側面です。

たとえば、学校教育目標という大きな看板のもとで、直近2〜3年で実現を目指す具体的な短期目標を設けて、資質・能力の三本柱と関連づける作業を行っているか。学習指導要領の内容を年間指導計画や各教科の単元計画に落とし込んでプランニングできているか。学習指導要領総則にも示されている点の再検討が重要です。それが毎時の授業と結びついていることが分ければ、教室に立つ先生方も自分事としてカリマネを受け止められるのではないかと思います。

カリキュラムの「タテ」と「ヨコ」で編成

こうした「タテ」のつながりを明確にする作業を踏まえると、自分たちの学校の子どもに身につけさせたい資質・能力や「この1年では、この単元やこの教時間がとくに重要だ」という重点単元が見えてきます。土台となる年間のカリキュラムは教科書ベースではほぼできあがっているはずなので、地域や学校に固有な課題や、ESDやキャリア教育などの「ヨコ」——「教科等横断的」の視点を取り入れると、案外とうまくカリマネが機能するのではないでしょう

〔注〕学習指導要領総則第二の一：教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。（後略）